

## ◆ 「小児用肺炎球菌ワクチン」及び「ヒブワクチン」接種の一時見合わせについて

小児用肺炎球菌ワクチン及びヒブワクチンを含む同時接種後の死亡例が、3月2日から本市を含めて4例発生したことを受け、厚生労働省から、「小児用肺炎球菌ワクチン」及び「ヒブワクチン」接種の一時見合わせについて通知がありましたのでお知らせします。

○厚生労働省からの通知(京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課 感染症予防担当ホームページ)  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000097055.html>

## ◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例あります。本年初の報告で、家族での集団発生です。型別はO157(VT1VT2)、推定感染地域は国内、推定感染経路は経口及び接触感染です。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、1.08(43例)で、2週連続で増加しています。年齢階級別では、4歳が最も多く(11例, 25.6%)、4～6歳が53.5%を占めています。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、7.85(314例)で、過去5年平均値を上回る報告数で増減しています。年齢階級別では、1歳(44例, 14.0%)、2歳(39例, 12.4%)の順に多く、1～5歳が55.1%を占めています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、7.88(528例)で、4週続けて減少しています。5歳ごとの年齢群別では、5～9歳を除く各年齢群で、3週続けて減少していますが、5～9歳は先週に比べ増加しています(第7週 130例, 第8週 190例)。

## ◆ 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.40(16例)で、平成22年第33週(8月16日～22日)以降、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O157・VT1VT2) 3例【1月以降の累積報告数 3例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	7.88	528
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.85	314
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.08	43
	③ 水痘	0.73	29
	④ 伝染性紅斑	0.40	16
	⑤ 突発性発しん	0.28	11
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.28	11
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

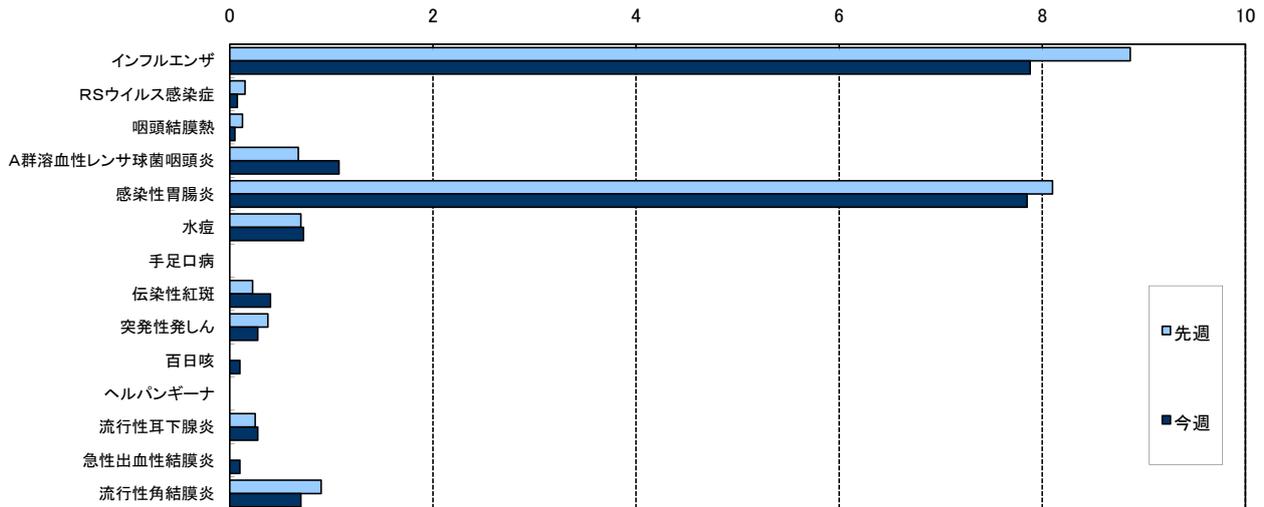
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

(注) 京都市のデータは、平成23年3月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

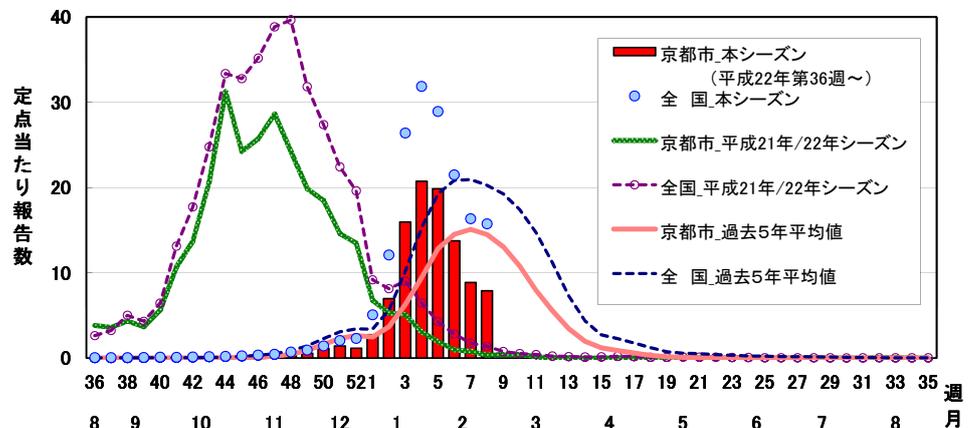
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第8週)と先週(第7週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

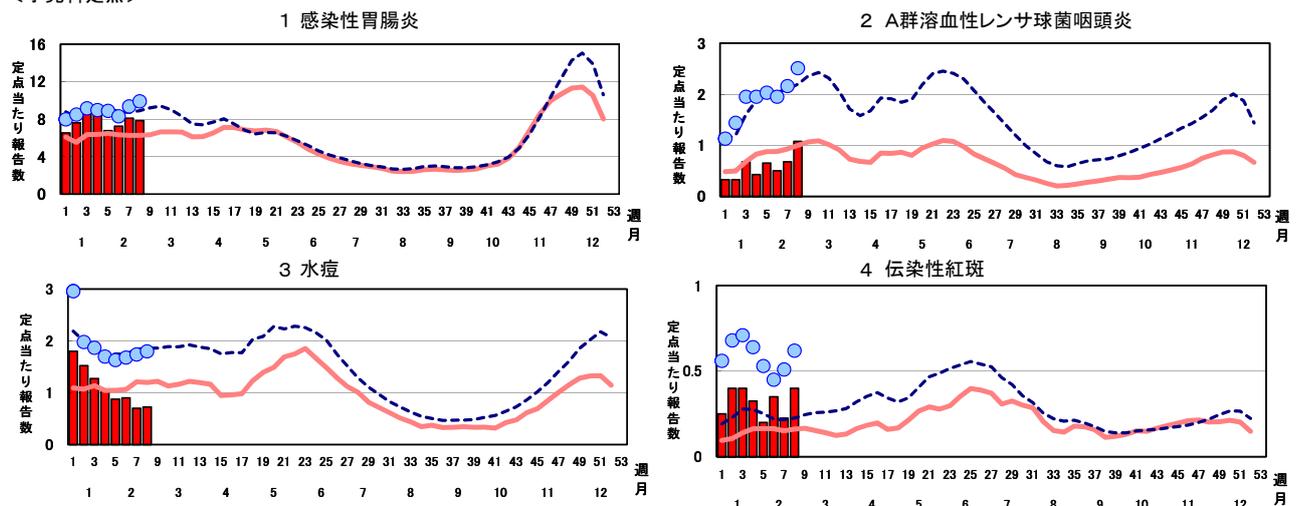
週	報告数(例)
第4週	1,389
第5週	1,330
第6週	921
第7週	594
第8週	528
累積報告数 (第36週以降)	6,859



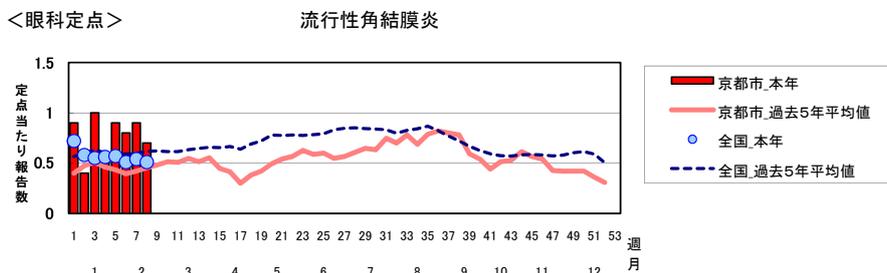
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第8週(2月21日～2月27日)トピックス: <伝染性紅斑>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.40(16例)で、平成22年第33週(8月16日～22日)以降、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。過去10年間(平成12年～)の定点当たり報告数の推移をみると、4～5年おきに多くなっており、昨年から続く流行が、今後、大きくなる可能性があります。今後の動向にご注意ください。

年齢階級別割合では、過去の流行年に、2歳以下の占める割合が他の年と比べて低くなる傾向がありますが、本年第1週からの累積報告数も、同様の傾向が見られます。

国立感染症研究所感染症情報センターのホームページに、伝染性紅斑と麻疹の鑑別診断に関する記事が掲載されていますので、ご参照ください。

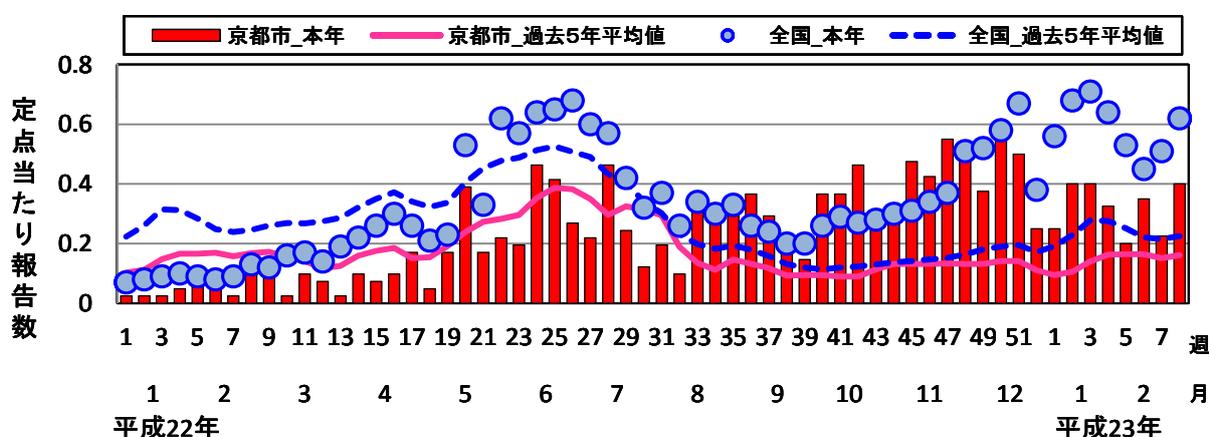
○伝染性紅斑の成人患者における血清中の麻疹ウイルスIgM抗体価の変動

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3676.html>

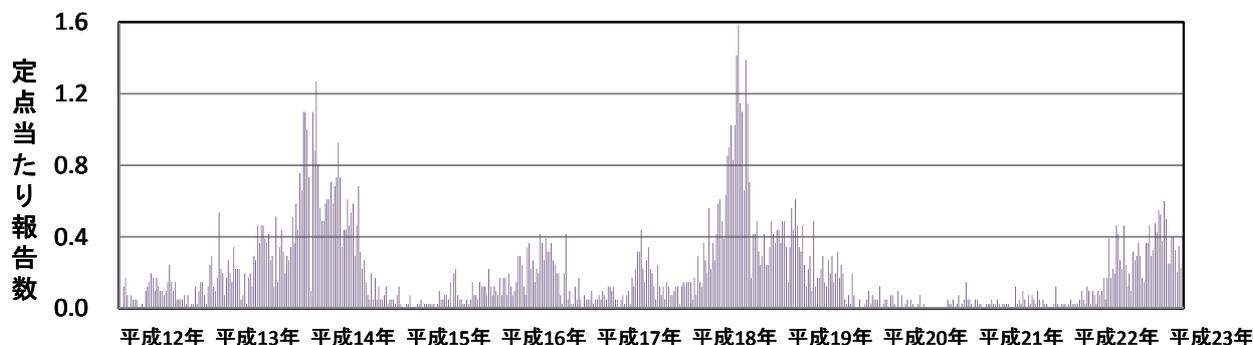
○麻疹と診断された伝染性紅斑の家族例 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3674.html>

○麻疹か伝染性紅斑か診断に迷った症例 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3673.html>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(平成22年～平成23年第8週)



平成12年～平成23年第8週の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合

